

シンポジウム開催のご案内

「地球温暖化対策を考えよう

～気候変動の緩和対策について、IPCC 第5次評価報告書の最新知見を学ぶ～」

IPCC 第3作業部会報告書が平成26年4月公表されたことを受け、気候変動の緩和策に関する最新の知見について理解を深めて頂くため、下記の通りシンポジウムを開催いたします。

(主催：経済産業省、共催：RITE)

本シンポジウムでは、IPCC 第3作業部会共同議長の基調講演をはじめ、同報告書執筆者から報告書のポイントについて解説頂くと共に、パネルディスカッションでは、これからの気候変動の緩和策について討論を行う予定です。

IPCCの気候変動緩和策にご関心をお持ちの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

記

1. 概要

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、平成26年4月に開催された総会（ベルリン）において第5次評価報告書 第3作業部会報告書を承認し、公表しました。

このIPCC 第3作業部会報告書では、温室効果ガスの抑制・削減（気候変動の緩和）のための政策や施策に関する評価を取り扱っており、これら気候変動の緩和対策についての最新知見を学ぶと同時に、理解を深めるため、以下の通りシンポジウム『地球温暖化対策を考えよう～気候変動の緩和対策について、IPCC 第5次評価報告書の最新知見を学ぶ～』を開催いたします。

本シンポジウムでは、IPCC 第3作業部会共同議長オットマー・エーデンホフファーの基調講演をはじめ、同報告書の執筆に参加した国内外の研究者（IIASA ケイワン・リアヒ、電中研 杉山大志、RITE 秋元圭吾）から報告書の各章のポイントについて紹介頂きます。またパネルディスカッションでは、産業界からもパネリストとして参加頂き、今後の気候変動対策に関する議論、討論を行う予定です。

2. 日程等

日 時：平成26年9月8日（月）13:00～17:00（受付開始：12:30から）

場 所：イイノホール（東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4F）

主 催：経済産業省

共 催：公益財団法人地球環境産業技術研究機構

参加費：無料

定 員：300名

3. プログラム

主催者挨拶：経済産業省 産業技術環境局長 片瀬 裕文

基調講演：『IPCC 第3作業部会（温室効果ガスの抑制・削減）第5次報告書からの洞察』
第3作業部会共同議長 オットマー・エーデンホッフアー（ポツダム気候影響研究所）

講演：『排出経路、排出削減費用および経済影響』
第6章 主執筆者 秋元圭吾（地球環境産業技術研究機構）

講演：『部門別緩和戦略および気候政策の共同便益（コベネフィット）』
第7章 主執筆者 ケイワン・リアヒ（国際応用システム分析研究所）

講演：『政策はどう評価されたか』
第15章 統括執筆者 杉山大志（電力中央研究所）

パネルディスカッション：

『IPCC 報告書を踏まえ、気候変動対策はどうするか』

コーディネーター 山口 光恒（東京大学／地球環境産業技術研究機構）

パネリスト オットマー・エーデンホッフアー（ポツダム気候影響研究所）

秋元 圭吾（地球環境産業技術研究機構）

ケイワン・リアヒ（国際応用システム分析研究所）

杉山 大志（電力中央研究所）

産業界から1名予定

（詳細はパンフレット参照 本プログラムは都合により変更になる可能性があります。）

4. 参加申込み

RITE ホームページ (<http://www.rite.or.jp/news/events/2014/08/ipcc2014.html>) より、平成26年9月2日（火）までにお申込み下さい。参加申込み多数の場合は先着順となりますので、あらかじめご了承ください。

5. プレス登録

取材を希望される報道関係者の方は、事前に参加申込み下さいますようお願いいたします。
やむを得ず当日受付となる場合は、本人確認のため名刺をご持参下さい。

お問い合わせ先

広報： 広報・産業連携チーム 大倉、辰巳

TEL：0774-75-2301 FAX：0774-75-2314 E-mail：pub_rite@rite.or.jp

シンポジウムの内容： 企画調査グループ 鳥居、清水、大野

TEL：0774-75-2302 FAX：0774-75-2314 E-mail：symposium@rite.or.jp



地球温暖化対策を考えよう

— 気候変動の緩和対策について、IPCC第5次評価報告書の最新知見を学ぶ —

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は、平成 26 年 4 月に開催された総会 (ベルリン) において第 5 次評価報告書 第 3 作業部会報告書を承認し、公表しました。

IPCC 第 3 作業部会報告書では、温室効果ガスの抑制・削減 (気候変動の緩和) のための政策や施策に関する評価を取り扱っており、様々な行政レベルや経済セクターにおける選択肢を評価し、種々の緩和対策が社会に及ぼす影響を評価しています。

こうした気候変動の緩和対策についての最新知見を学ぶと同時に、報告書を執筆した研究者、対策を実施する産業界等を招いて議論を行い、理解を深めるため、シンポジウムを開催します。

本シンポジウム前半の講演では、IPCC 第 3 作業部会共同議長のオットマー・エーデンホッファー博士 (ポツダム気候影響研究所) による基調講演を含め、同報告書の執筆に参加した国内外の研究者より、報告書のポイントについてご紹介いただきます。さらに、後半のパネルディスカッションでは、前半の講演者に加えて産業界からもパネリストとして参加いただいて議論・討論を行い、気候変動の緩和対策について理解を深めます。

日時

平成26年 9月8日 (月)
13:00 ~ 17:00 (受付開始: 12:30 から)

場所

イイノホール

東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング 4F

同時通訳有り
参加費無料
定員 300名

主催: 経済産業省

共催: 公益財団法人
地球環境産業技術研究機構 (RITE)

参加申込み

RITE ホームページ
<http://www.rite.or.jp/news/events/2014/08/ipcc2014.html>
よりお申込み下さい。

お申込みの期日は平成 26 年 9 月 2 日 (火) までとなります。参加申込み多数の場合は先着順となりますので、あらかじめご了承ください。



公共交通機関でご来場をお願いいたします。

プログラム

12:30 受付開始

13:00 主催者挨拶 経済産業省

13:10 『 IPCC 第 3 作業部会（温室効果ガスの抑制・削減）第 5 次報告書からの洞察 』
第 3 作業部会共同議長 オットマー・エーデンホフファー（ポツダム気候影響研究所）

13:50 『 排出経路、排出削減費用および経済影響 』
第 6 章主執筆者 秋元 圭吾（地球環境産業技術研究機構）

14:20 『 部門別緩和戦略および気候政策の共同便益（コベネフィット） 』
第 7 章主執筆者 ケイワン・リアヒ（国際応用システム分析研究所）

14:50 『 政策はどう評価されたか 』
第 15 章統括執筆者 杉山 大志（電力中央研究所）

15:20 休憩

15:40 パネルディスカッション
『 IPCC 報告書を踏まえ、気候変動対策はどうするか 』
コーディネーター 山口 光恒（東京大学／地球環境産業技術研究機構）
パネリスト オットマー・エーデンホフファー（ポツダム気候影響研究所）
秋元 圭吾（地球環境産業技術研究機構）
ケイワン・リアヒ（国際応用システム分析研究所）
杉山 大志（電力中央研究所）
産業界から 1 名予定

17:00 閉会

※本プログラムは、都合により変更になる可能性があります。

問い合わせ先

公益財団法人地球環境産業技術研究機構 企画調査グループ 鳥居、清水、大野
〒 619-0292 京都府木津川市木津川台 9-2
電話：0774-75-2302、FAX：0774-75-2314
e-mail：symposium@rite.or.jp
<http://www.rite.or.jp>

